

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2016 受賞作品展示会 開催

PVC Design Award 事務局

■随想

◇芸は身を助く！？

Ⅲ. 「民謡界（唄と楽器）」（後編）

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫

紫風会 主宰 泉 紫風

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2016 受賞作品展示会 開催

PVC Design Award 事務局

本メルマガ [No.573\(12/1 配信\)](#)の「PVC Design Award 2016 発表&表彰式」でご案内しました通り、今年は表彰式当日から [GOOD DESIGN Marunouchi](#) で受賞作品の展示会を行いました。

GOOD DESIGN Marunouchi は、グッドデザイン賞を運営する公益財団法人日本デザイン振興会が主催・運営するギャラリーで、デザイン関係の様々な展示会・イベントが催されており、デザインと人、デザインと社会をつなぐコミュニケーションプラットフォームの役割を担っています。今年のアワードは新しく日本デザイン振興会に後援を頂いており、その関係から東京での展示会を同ギャラリーで開催させていただくことになりました。ここは丸の内の仲通りに面した高級ブランド店が並び、人通りが絶えない好立地なギャラリーです。

ここに、今年を受賞作品に加えマッチング作品、過去の受賞作品、製品化された作品の展示会を11/25～12/4の10日間に亘り開催しました。好立地さに加え11月から仲通りは17:30からイルミネーションが点灯し、特に夕方からは人通りが絶えないため、ギャラリーの外からふらっと入られる方も多く、期間中に約4,000名と非常に大勢の来場がありました。中には、受賞者の家族の方が来られ作品の前で写真を撮る光景が見られました。また、教え子が受賞したと美術・芸術大学の先生方も来られ、今回のマッチング方式については他に例のないアワードで、加工メーカーなどの作り手を紹介してもらえるのはいい仕組みだとの評価を頂きました。



GOOD DESIGN Marunouchi (外観)



GOOD DESIGN Marunouchi (展示場)



展示会の様子



トークイベントの様子

期間中には、審査員で AXIS 編集長の石橋勝利氏とプロダクトデザイナーの鈴木啓太氏をスピーカーに「素材から生まれるこれからのデザイナー PVC DESIGN AWARD に期待するもの」と題して、トークイベントを開催しました。今回、大賞を受賞した方々にもご登壇いただき、本アワードに期待すること、これからのアワードのあり方などについて意見、提案をいただきました。本イベントの様子は、AXIS 誌の [Web 版「jiku」](#) に 12 月 14 日に掲載されていますので、是非ご覧ください。

尚、今回の受賞作品と惜しくも入選を逃したマッチング作品、製品応募について、年が明けての開催になりますが、名古屋、大阪、福岡の各会場で展示会を行いますので、こちらも是非、足をお運びください。

- | | | |
|-----|--------------------|---------------------------------------|
| 大 阪 | 2017 年 1 月 24-25 日 | 会場：大阪メルカート会館 4F 大ホール |
| 名古屋 | 2017 年 1 月 27 日 | 会場：クリエイティブビジネススペースコード
(ナディアパーク 4F) |
| 福 岡 | 2017 年 2 月 2 日 | 会場：イムズ (天神) 10F セミナールーム A |

<詳細> お問い合わせ info@vec.gr.jp
PVC Design Award [公式サイト](#)

■ 随想

◇芸は身を助く！？

Ⅲ. 「民謡界 (唄と楽器)」 (後編)

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫
紫風会 主宰 泉 紫風

日本の民謡に使用される楽器は、種類も多く多彩です。なぜならば、前回の記述の如く、その種類や数は半端なく、作業唄 (農作業・酒造り・他)・山唄 (馬子唄・追分)・舟唄 (漁師・川下り)・御座敷唄 (武士の武勇や貴族の優雅な遊び・芸者さんの小唄・新内・端唄様の艶もの)・祝儀唄 (婚儀・祝いの席)・・・と、非常に多岐に亘っているからです。

☆一番に挙げられるものとして三味線がありますが、一口に三味線と言ってもジャンルによっても曲によっても違います。民謡三味線と言うジャンルに絞っても太棹・中棹・細棹があります。沖縄には三線さんしんという三味線もあります。



黒檀三線

① 太棹は元々は浄瑠璃三味線です。

主に津軽や東北民謡に使われます。激しく強い曲調に合い、激しく強く弾く奏法にも耐えられる様にと、胴（太鼓の部分）に貼られる皮は犬皮です。胴の大きさにも関係しています。棹は紅木（タイ産出の堅い材質／現地では粉にして口紅に用いる）が主流で、撥は水牛の角や紅木をベースにした、べっ甲が用いられます。最近では強化プラスチックの開発で象牙に似せた白撥や透明な撥も使われる様になりました。

糸は三本とも絹糸ですが、太さは細棹に使用するものの倍以上ですが、激しい撥打ちで痛みも激しく、演奏中に切れる事を回避する為に、最近では二の糸・三の糸にナイロン糸やテトロン糸を用いる事が多くなりました。

胴掛（胴の上に掛けて右ひじを乗せる部分）には、塗りの滑りやすい材質を使用しますが、これは太棹独特なもので細棹などでは、肘が滑らない様に布地を使っています。激しい演奏に適するように開発したものでしょう。



紅木太棹

② 一般的な民謡三味線は中棹です。

津軽三味線で有名な高橋竹山は太棹よりも中棹を使って繊細な弾き方を得意としていました。これは特殊です。とは言え、殆どの民謡は中棹でしょう。

中棹は、やはり最近の主流は紅木の棹ですが、昔は花梨や紫檀・黒檀などが用いられていました。花梨の様に柔らかい材質のものは音色も柔らかくなります。皮は犬と猫が入り交ざってます。音色にこだわるならば、やはり猫です。発情前の雌猫のお腹の部分ですので、皮の質もしっとりとして薄く柔らかく、乳首があるのが特徴です（犬皮にはありません）。「このバチあたりめ！」とか「バチがあたる！」という言葉は、三味線の皮にされ、撥で叩かれる猫になぞらえて使われたとの説もあります。



紅木中棹／短棹

用いる撥も象牙とべっ甲が入り交ざってます。



左から、象牙・紅木べっ甲・白FRP・透明FRP

③ お座敷唄などでは細棹が使われます。

太棹・中棹・細棹と、その構え方も撥使いも各様ですが、特に細棹は音色を重視する為に、構え方にもこだわりがあります。身体と胴の間は必ず隙間を空け、皮の響きを殺さない。

その為、滑りにくい材質の胴掛に右ひじを掛けて三味線を固定しなければなりません。

当然、糸は絹、皮は猫、撥は象牙となります。

チントンシャン、シャリシャリといった澄んだ音が出ます。

沖縄の三線も細棹ですが、皮は蛇の皮、撥は水牛の角を右手の人差指にはめてピックの様に弾きます。



花梨細棹

邦楽器の中で一番難しいのが三味線とも言われています。
なぜなら、糸も皮も気象条件・演奏空間条件で舞台上でも伸び縮みしますので、演奏しながらの調整が必要である事、即座に調弦（本調子・二上がり・一下がり・三下がり etc）が出来るまで何年かかるとも言われています。ギターのようにフレットもありません。民謡をやらなければこんな違いも解らず仕舞いだったのかも知れません。感謝です。

他の楽器を、まずは列記してみます。
尺八・横笛・太鼓・胡弓・ささら・鉦・擬音用小道具など・・・。

☆次に尺八ですが、尺八が民謡に使われ始めたのは昭和に入ってからです。それまでは仏教（特に普化宗）で瞑想修行に使われていた法器です。虚無僧を思い出して戴ければ納得すると思います。禅宗では座って瞑想する修行を座禅、歩きながらの歩行禅、尺八（笛）を吹く吹禅と言いますが、まさに吹禅です。江戸時代には尺八を僧侶以外の衆生が使う事を禁じていた時期がありました。尺八が何故尺八と言うかと言えば、その長さが一尺八寸だったからです。吹禅法器として用いられたここ数百年間は、一尺八寸管の尺八だけでした。それで虚無僧が連奏できるわけです。



民謡尺八

流派も多く、琴古流・都山流・上田流・竹保流など・・・。
唄の伴奏に使う為には一尺八寸管だけでは難しく、現在は一尺四寸から二尺五寸まで十二種類の尺八があります。但し、二尺四寸・二尺五寸くらいになると指が届かないので、裏吹き奏法（オクターブを入れ替える）でカバーします。
民謡では明治時代から始まった都山流の手が一般的ですが、民謡独特な奏法もあります。表に四つ、裏に一つの五つの穴で曲を奏でるので、それだけでも難しいのに竹との相性や気候にも左右されるという難解な楽器です。
馬子唄・追分節調の唄の主伴奏に良く用いられますが、現代では殆どの民謡に用いられています。民謡＝尺八と思われがちですが、その歴史は浅いのです。

☆横笛と言っても、いろいろな種類が有り、主に民謡で使われるのは篠笛と神楽笛でしょう。篠笛は古くは平敦盛「青葉の笛」・源義経（牛若丸）・お通さん（宮本武蔵）・源氏物語に出てくる貴族男子のID（笛の音色とお香）でもありました。その歴史はとても古く雅楽器以外では一番古い邦楽器かも知れません。材質は竹ですが、漆を塗ったものや籐の巻き物をあしらったものもあります。神楽笛は神社の祭礼や獅子舞・神輿行幸などに使われる笛です。

雅楽の龍笛は別物ですが、お能で使う能管をあしらい笛として用いる場合もあります。



篠笛



能管・龍笛

次の写真は、私が考案した新しい篠笛です。旧来の7穴から6穴にしてジャンルを問わず洋楽器ともコラボレーション出来るように調律し、奏法も変えました。古典の曲も同様に吹く事が出来ます。



紫風仕様の6穴の篠笛

☆太鼓は調子の良い曲調には欠かせません。独特のリズムで曲の雰囲気盛り上げる役割を持っています。

☆胡弓は三味線を縮小した形状ですが、糸を持ち上げる駒の位置が違いますし、撥ではなくバイオリンの様に馬の尻尾の弦でこすりながら音を出します。

右の写真は、日本の民謡で使われる絹糸三本の胡弓です。



胡締め太鼓

胡弓

ささら

中国では二胡が一般的ですが糸はスチールで弦は二本の糸の間を通して弾きます。京劇で用いるのは京胡といって小振りです。最近は三本の糸を使った三胡が流行しているそうで、その方が、和音が出て弾き良いからだそうです。

☆ささらは、主に「こきりこ節」に使われます。108枚の板を連打して奏でます。108枚は仏教の108つの煩惱から来ていると言われてます。元々は、やはり法器だったのでしょうか？

さて、三回目までは非常に学術的な講釈も多くなってしまいました。次回からは、小生の経験を基に楽しいお話しも、してみたいと思います。

合掌 紫風

(つづく)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

過去に4回、東京大学の施設を借りシンポジウムを行いました。第4回目となった今年11月18日、第1回目は11/12、第2回目は11/22、第3回目は11/20といずれも11月中旬の開催でした。東大と言えば校章にも描かれている銀杏が有名ですが、残念ながら11月中旬は紅葉にはまだ少し早いようです。シンポジウムが終わると東大に行く機会はありませんが、恐らく例年は12月初旬から中旬頃、ちょうど今回のメルマガ発行の頃が見頃なのだろうと思います。今年は11月下旬に積雪があり冷え込んだので早まったかも知れません。(LR)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp